



具体的な麻酔方法のご紹介

●鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなど

全身麻酔がかかってから、仙骨麻酔や神経ブロックを行います。傷口から局所麻酔薬を浸潤させることでも術後数時間痛みをとることができます。詳しくは入院時にお伝えします。術後痛む場合は坐薬を用意しています。坐薬は使わずに済むことが多いですが、これも人により、手術により異なりますので、痛む場合はお知らせください。

●お腹や足の手術で入院が長い手術

硬膜外チューブ（背中から春雨のような細いチューブを入れてここから局所麻酔薬を投与します）や点滴で3日から4日間、24時間持続的に鎮痛を行います。専用の投与装置で注入でき、痛いときにはご自分やご家族がボタンを押して痛みどめを追加することもできます。薬の種類が違うため、坐薬との併用も可能です。詳しくは入院時にお伝えしています。

●筋疾患のある方

筋疾患のある方では使えない麻酔のお薬もあります。

また病状により、呼吸や心臓の機能が麻酔に耐えられないこともあります。術前に心臓の機能の評価を受けていただくようお願いしています。患者さんの安全確保の為ですのでよろしくお願い申し上げます。

●自閉症、知的障害のある方

手術室への入室が困難と思われる方には、入室前に内服薬で軽く鎮静していますが、こだわりが強く、内服困難な場合は点鼻で寝かせてから入室し、できるだけ心に負担がかからないようにしています。点滴が平気な方は、お部屋で点滴から眠るお薬を入れて、眠ってから入室していただくこともできます。

●脳性麻痺の方

ご自分から痛みや怖さ、不安などを言っていない場合は、できるだけ先回りして鎮痛剤や鎮静剤を使用するようにしています。おうちの方でないとわからないようなご本人からのサインがあればぜひ病棟や手術室スタッフにお知らせください。

それ以外にも手術室に入るのが怖い方には事前に飲み薬や点滴などですこし、ぼーっとしたり、眠っ



てから来ていただけるような工夫もしています。

小さいお子さんには入室後に好きな歌をかけたり、麻酔用のマスクにはご希望のフルーツやお菓子のにおいをつけて、吸うタイプの麻酔薬で眠っていただき、点滴は眠ってから行っています。眠るまではスタッフみんなで、積極的にお子さんの目線でたくさん話しかけて、楽しい雰囲気を作るようにしています。

